

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
 〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
 電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
 (公) 千葉 (22) 7207 番

動労千葉結成10周年!

1989.11.3 No.105

トップを切って (10月31日) 千葉転支部定期大会がちとる!

清算事業団闘争の先頭に起とう

十月三十一日、千葉運転区支部の第十二回定期大会が十四支部の先陣を切って開催された。

清算事業団へ、とりわけ執行部五名もが送り込まれた支部は原職へ奮い還す闘いの先頭に起つ決意を打ち固めた。

十一名の仲間を奮い還そう

大会は、仁藤執行委員の開会挨拶ではじまり、加藤氏を議長に選出した後、支部を代表して繁沢支部長より「清算事業団闘争の第一の山場をむかえようとしている。十二名の仲間への国鉄、JRの二重の首切りを断じて許してはならない。これを許すならば、大量出向をはじめとしたあらゆる攻撃がかけられるのは明らかであり、清算事業団闘争を闘えなければ、これからの攻撃に打ち向うことはできない。大会の成功をかちとり、支部の団結を強め全力で闘い抜きたい」と決意を明らかにした。

いま、臨戦体制に突入した

続いて、来賓として本支部中野委員長より「支部は解雇者、清算事業団配属者を出す中で大きなプレッシャーを負いながら闘い抜いていることに敬意を表する。本部大会では、分割・民営化渦中で裂かれた解雇者、清算事業団、JR本隊が三昧一体となって反撃に起つ体制が整った。一九九〇年代は労働者にとって大変な時代に突入しようとしている。十年間、いかに闘い抜いていくのか展望したとき、当面する清算事業団闘争をいかに闘い勝利するのかにすべてがかかっている。運転保安確立の闘い。奪われた労働条件をとり戻す闘いと結合して、新たな闘いに起とう。いま、動労千葉は臨戦体制に入ったことを強く認識してほしい」と訴えた。

腹を固めて闘いに起とう

さらに、田中新書記長

より「分割・民営化以来、もう一度、動労千葉が腹を固めて闘いに起たなければならぬ状況をかえしている。東中野事故、習志野電車区構内事故は安全をないがしろにし、千転での強制配転問題では『活性化』としか言えない無茶苦茶をやり、日常的に労働者のしめつけのみに奔走してきた当局に一切の責任がある。労働者にすべてをおしつけてすまそうとする当局を断じて許してはならない」と述べた。

秋から春へ重大な時期をかえしている。千葉運転区支部は、再び動労千葉の最先頭で闘う方針を採択し、大会は終了した。

清算事業団闘争勝利へストライキ体制を堅持し、強制出向・配転攻撃粉碎、反合運転保安確立にむけ総力を結集し、総反撃に打って出よう!

支部執行部より経過報告、方針案が提起され、質疑に入った。

運転競技会、年休、運転保安、強制配転、スト生活基金などの意見が出され討議された。

労員合理化につながる休日制度、交番検査の改善を提案・画策している。国鉄時代に比べ一・八倍の労働強化のうえに「六万人体制」攻撃、これに対し黙っていたら、総連のようにやっていたら労働者は本当に殺されてしまう。

一九八九年度新役員

- | | |
|-------|--------|
| 執行委員長 | 繁沢 敬一 |
| 副 | 永田 雅章 |
| 書記長 | 大野 茂 |
| 執行委員 | 押垂 正彦 |
| | 久保庭 幸平 |
| | 五十嵐 和夫 |
| | 今井 武幸 |
| | 岩瀬 孝一 |
| | 仁藤 久秋 |
| | 影山 和広 |
| | 吉田 英樹 |
| 青年部長 | 高橋 正 |

大会スケジュール	● 22日... 幕張	● 28日... 勝浦
	● 14日... 新小岩	● 25日... 木更津 (いづれも11月)
	● 20日... 総武	● 27日... 津田沼

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!